

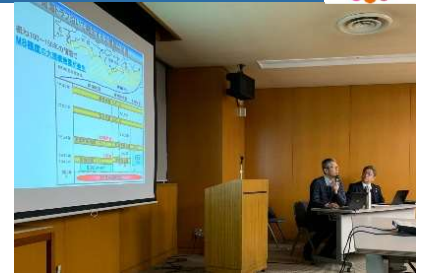
一幸建設は昭和53年の設立以来、三河エリアで地域密着の建築と不動産に携わる会社です。本来ならば直接ご挨拶申し上げるべきところ不躱ではございますが、私どもの会社を知っていただきたいとの思いから、一度でも名刺交換などご縁を賜りました方に、ニュースレターを送付しております。『みんなの幸せをカタチにする』仕事を通じて関わる全ての人との幸せと社員の日々成長を糧に、地域の皆様に必要とされるお役立ち企業を目指しております。東三河での建築と不動産に関することでしたら、小さなことでもお気軽にご相談ください。

代表取締役 山本敬輔 営業スタッフ一同

事業所の ZEB 化による中小企業の防災拠点化 ～エネルギーシフト～



先日、市の防災危機管理課と地域防災について学ぶ、中小企業の勉強会にて、弊社の本社オフィスビルの ZEB 化の取り組みを、実践事例として報告をさせて頂ける機会を頂きました。『国内約 400 万社あると言われている企業の 99%以上が中小企業です。そして、就業労働者の約 7 割が地域の中小企業で働いています。地域防災を考えるうえで、地域に点在する中小企業の事業所、事務所、倉庫、工場、店舗など、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）化を行い、太陽光発電などの創エネ設備を充実させることで、エネルギーの自給自足、災害時の防災拠点としての機能を持たせることは非常に有効な取り組みとだと考えます』このような報告趣旨で ZEB 化における、事業主のメリットや地域に与える有用性、また今後の課題など、実践内容を交えて報告をさせて頂きました。



地域中小企業は行政と手を携え地域防災をどう築くのか？
～地域の安全なくして地域企業の繁栄なし～
豊橋商工会議所 407 会議室
日時 2025 年 2 月 20 日（木）
1）大規模災害における地域防災の課題と企業連携
2）ZEB 化による中小企業の防災拠点化
・グループディスカッション、他

【地域防災の観点からの事業用建築物 ZEB 化のメリット】

■災害時の電力供給の拠点

地震や台風、大規模停電などの際に、エネルギー供給網が寸断された場合、太陽光発電と蓄電池を備えた ZEB 化施設ならば、エネルギーの自給自足が可能で、避難所や防災拠点として機能する可能性がある。

■地域の防災拠点不足の解消

地域とのコミュニティを形成している地元中小企業の事務所・倉庫・店舗が防災拠点として機能することで、公共施設の避難所だけでは十分な受け入れができない場合、民間企業の事業所が避難所、防災拠点として機能できる可能性。

■事業継続計画(BCP)との親和性及び行政との連携

企業側にとっても、中小企業は災害による影響を受けやすく、一度被災すると復旧が困難になることが多いが、ZEB 化により、エネルギーを確保しながら事業を継続し、地域経済の早期回復に貢献できる。事業継続力強化計画認定など、行政からの支援や連携が得られ易くなる可能性。



ZEB 化に取り組むうえでは、様々な課題もありますが、弊社の取り組み事例が、地域における持続可能で質の高い社会資本整備という、地域の生活インフラを担う、中小建設業の果たすべきミッションに繋がるよう、今後も、このような活動を進めてまいります。

※次回のお役立ちコラボセミナーは 3 月 26 日(水)開催予定です。同封のチラシをご覧ください。

地元密着東三河での不動産と建築のことなら小さなことでもお気軽にご相談下さい！

※ニュースレターがご不要な場合はお手数ですが 0532-46-9336 まで